

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和5年度第1回会議
日 時	令和5年9月27日(水) 午後1時30分～3時30分
場 所	前橋市役所11階 北会議室
出 席 者	<p>【委員：13名】</p> <p>リモート参加：稲田委員、江口委員、大森委員、北村委員、田中委員、中島委員、萩原委員、橋本委員、森下委員、前田委員、矢嶋委員、矢端委員、山形委員</p> <p>【前橋市】</p> <p>中島副市長、吉川教育長、細谷未来創造部長、宇次政策推進課長、高橋未来政策課長、大原文化国際課長、田中こども支援課副参事、岡田こども施設課長、樋口健康増進課長、三田保健予防課長、大谷産業政策課長、中野農政課長、宇田都市計画課長、林政策推進係長、政策推進係員</p>
発 言 内 容	<p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和5年度第1回会議を開会いたします。私は、本日の司会を務めます、前橋市未来創造部長の細谷と申します。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>本日の会議は、リモート参加での開催とするとともに座席もリモート用の配置となっています。</p> <p>それでは、はじめに、県都まえばし創生本部・副本部長の中島副市長からごあいさつを申し上げます。</p>
細谷未来創造部長	<p>本日は、お忙しい中「県都まえばし創生本部有識者会議令和5年度第1回会議」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、第七次総合計画の土台となる第2期推進計画の進捗管理について議論をいただく予定となっております。ご存知のとおりコロナウイルスやウクライナ情勢、あるいは燃料や物価の高騰によりまして前橋市政においても社会状況が大きく変化する中で、事業推進を余儀なくされているところでございます。このような状況の中で、しっかり事業に取り組みこれから先に繋げていかなければなりませんので委員の皆様には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきまして計画に反映していきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>
中島副市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>また、本日は副本部長である吉川教育長にもご出席いただいておりますが、時間の都合上、ご紹介のみとさせていただきます。</p> <p>次に、今年度、新たに委員になられた方をご紹介いたします。前橋市私立保育園長連絡協議会 会長 田中(たなか) 章宏(あきひろ) 委員さん、日本政策金融公庫 前橋支店 支店長 森下(もりした) 勝弘(かつひろ) 委員さん、一般社団法人 コード・フォー・ジャパン コンサルタント 山形(やまがた) 巧哉(たくや) 委員さんです。以上の3名となります。</p>
細谷未来創造部長	

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

新たに団体として一般社団法人 コード・フォー・ジャパン様に参画いただきます。本日ご参加の山形さんについてご紹介させていただきます。

山形さんは、北海道森町の公務員として働かれていた際に、ICT 担当となり、各種ネットワークの設計・構築などを行い、自治業務の電子化に関することを学ばれました。現在は、一般社団法人コード・フォー・ジャパンに所属し、全国の市町村のデジタル支援や自治体の DX 化に携わっており、本市においては CIO 補佐官を務めていただいております。

続きまして、本市の出席者についてですが、自己紹介については省略させていただきますが、冒頭ごあいさつを申し上げました中島副市長以下、名簿に記載のとおり計 19 名となっておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。

資料は事前に送付させていただきました次第下部に記載のとおりとなっております。必要に応じて、お手元でご確認いただきながらご協議をお願いいたします。

資料一覧

(1) 次第

(2) 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿

(3) 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱

(4) (資料 1) 第七次前橋市総合計画 令和 5 年度行政評価について

(5) (資料 2) 令和 5 年度行政評価シート (全 51 事業)

(6) (資料 3) 行政評価に対する意見等

(7) (資料 4) デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)  
活用実績一覧

(8) (資料 5) デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ)  
活用実績一覧

(8) (参考資料) 第七次前橋市総合計画 (創生プラン) 令和 5 年度行政評価等について

それでは、次第の「3 議事」に移ります。

ここからの進行は、設置要綱第 5 条第 2 項により共愛学園前橋国際大学の  
大森委員さんに座長をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただき、議事進行をお願いいたします。

大森委員

みなさん、こんにちは。

座長を務めさせていただきます、共愛学園前橋国際大学の  
大森でございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。コロナウイルスの関係もありましたが、いろいろな活動がまた動いてきて指標も少しずつかなというところですが、この総合計画について行政の外から前橋を応援している我々メンバーが集まっている色々な意見を出し合い、より良く計画

	<p>を推進してもらい、あるいは次の計画に反映してもらいするための会議ですので、ご忌憚なくたくさんのご意見を出していただければと思います。なるべく、一言でも全員の委員さんにご発言いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本会議は、概ね1時間半を目安に進めさせていただきますのでご協力の程よろしくをお願いいたします。また、本会議は公開となっておりますので、傍聴及び撮影につきまして許可することといたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事の(1)第七次前橋市総合計画の進行管理について、ということで、事前に資料をご覧いただいておりますし、たくさんのご意見をいただいておりますが、それを踏まえた上で改めて事務局から説明をしていただき、その後、皆様からご意見、ご質問をいただければと思います。それでは事務局からご説明をお願いいたします。</p>
政策推進係員	<p>【(参考資料)「第七次前橋市総合計画(創生プラン)令和5年度行政評価等について」に基づき説明】</p>
大森委員	<p>事前に皆様から頂いたご意見で特に意見が多かった部分について説明いただきました。今の説明に対して、ご質問、ご意見がありましたらをお願いいたします。それから事前に頂いたご意見に対して、事務局からのこのように考えておりますという回答に対して、ご意見もあるかと思っておりますので、今の説明あった事業以外のことについても触れていただきましてご意見いただければと思います。それぞれご専門の分野や活動されている分野が多岐に渡りますので全体でいろいろな意見を出していただければと思います。前の方との意見に繋がりが無いなども気になさらないでご発言をお願いいたします。</p> <p>では、どなたからでも結構ですので、ご発言については、手を挙げるボタンを押してください。では、実験的に私が手を上げるボタンを押してみます。</p> <p>では、どなたからでも結構ですのでご意見よろしくをお願いいたします。</p>
大森委員	<p>群馬県看護協会 矢嶋委員をお願いします。</p>
矢嶋委員	<p>事前意見でも質問させていただきましたが、P12・13について、今回も群馬県が鬱や自殺対策予防研修をやっておりますが、この中で重点事業18では自殺者数が前橋は多くなったとありました。2022年度は、全国から比較すると多くなり、2021年度は全国と同様の人数だったが2022年度においては、21.6%と増えております。ですが、P13のゲートキーパー養成では、2022年度は5,226人と養成では増えているが、自殺者数が全国平均から上回っています。ゲートキーパーの養成講座はしているが、それがどう関連しているかなど聞きたいと思っております。</p>
大森委員 三田保健予防	<p>ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。</p> <p>ご質問ありがとうございます。自殺対策については、対策と自殺者数に即</p>

課長	効性がないというところが、課題にもなっております。前橋は、ゲートキーパー研修につきましては、2022年度14回開催しまして、中学生を含めて1,180人のゲートキーパーの養成をしております。なかなかそれが、自殺者数の減少に結びつかないというところで、引き続きゲートキーパーの養成数を増やしつつ、自殺者の減少に取り組んでいきたいと思っております。以上です。
大森委員	ありがとうございました。矢嶋委員さんいかがでしょうか。
矢嶋委員	はい。ありがとうございました。
大森委員	ゲートキーパー養成は続けていかなければいけないと思っております。また要因のところをどうしていくかというのも大事になってくるかもしれないなと思っておりました。
大森委員	有限会社ヤバタファーム 矢端委員お願いします。
矢端委員	矢嶋委員の意見に関連してですが、新島短大に努めていた際に、毎年の健康チェックにメンタルヘルス面の健康チェックリストがありまして、職員全員が受けられるようになっていました。人間ドックや健康診断はできるが、メンタルヘルスの診断がしたく前橋市に確認したら、前橋市ではメンタルヘルスチェックをやっていませんというご回答でした。メンタルヘルスに関しては、簡単なセルフチェックを健康診断の中に取り入れられると良いのですが、いかがでしょうか。
大森委員	共愛学園前橋国際大学においては、前橋市に所在がありますがそのメンタルヘルスチェックを行っています。ただ、事業所単位なのかそれについて確認してみましよう。いかがでしょうか。
三田保健予防課長	健康診断の中ということではなくて、日々の心の健康相談を実施しています。事業所の中で、周りに不調の方がいらっしゃったら、まずは保健所をご案内いただければと思います。専門の精神保健福祉士・保健師が丁寧に対応させていただきますので、まずは保健所をご案内していただければと思います。
大森委員	その制度は素晴らしいのですが、矢端委員の質問は、メンタルヘルスのセルフチェックをするような健康診断の仕組みはどのようなのでしょうか、ということなのですが、市の管轄なののでしょうか、それとも各事業所が考えることなののでしょうか。
樋口健康増進課長	健康増進課では、がん検診を中心に行っておりまして、行政の縦割りがはっきり見えてしまっていますが、メンタルについては健康増進課の方では現在実施していないのが現状です。確かに大規模な事業所では労働安全衛生法の中でメンタルヘルスチェックを位置付けされていると思っております。
大森委員	ありがとうございます。やはり、法律で定められていて私の大学でも以前は

	<p>実施していなかったが、法律が変わって実施が始まったということですね。そうしますと、その対象に事業所がなっているかということが、重要なポイントだということですね。</p>
大森委員	<p>前橋市男女共同参画審議会 前田委員お願いします。</p>
前田委員	<p>自殺者数の折れ線グラフをみて思ったのですが、男女別は分かるのですが、年代に関しては分析されていらっしゃるのでしょうか。</p>
三田保健予防課長	<p>年齢別に分析しております。例えば、2022年度でありますと、年齢別で一番多いのは男性ですと40歳～49歳。次いで50歳～59歳、70歳～79歳。女性につきましては、40歳～49歳。同じく50歳～59歳。そして70歳～79歳ということで、前橋市の傾向としましては、男女ともに40歳～59歳の方が大半を占めています。以上です。</p>
前田委員	<p>ありがとうございました。2022年度の折れ線の上がり方が、ちょっと気になります。まして、コロナ禍だと女性の自殺が増えたということと、比較的年齢が若い女性の自殺が増えたという特徴があったのですが、ちょっとそれとは違う傾向なのかなとお聞きして思いました。</p>
大森委員	<p>前橋市都市計画審議会 中島委員お願いします。</p>
中島委員	<p>重点事業44番の公共交通の利便性のところで質問です。前橋市ではMaeMaaSや本町ラインのバスの等間隔運行で非常に先進的な取組も出てきておられて、成果が出ていると思います。一方で、今実施しているのが既存の公共交通（バス・鉄道・タクシー）が多くなっていますが、特に郊外部は公共交通では移動手段のネットワークが組めないのではないかと考えております。そこで、新たな移動手段としてどのような取組をしているのか。県庁で福祉ムーバーという、日帰りのデイサービスの送迎車両をタクシーの運転手が運転するという取組を伺いました。新たな既存公共交通以外の移動手段として、前橋市でどのようなことを考えているのかをお願いします。</p>
細谷未来創造部長	<p>ご質問ありがとうございます。街中では、バス・鉄道・タクシーが充実しているので便利ですが、おっしゃられるように郊外部では非常にバスの本数が少なかったり、空白地域があり不便ということがあります。やはり、コンパクトシティプラスネットワークということで、地域拠点、生活拠点とネットワークを結ぶというのが基本的な考えではあります。とは言え、郊外部の隙間については、なかなかバス路線の本数が少なかったり、バスが通ってなかったりというところについて、前橋の場合は今まではデマンド交通ということで取組んでいました。ただ、デマンド交通というのもバス停方式ですので、利用勝手が必ずしも良くないという実態もあります。</p> <p>既存のデマンド交通だけでなく、共助型交通という仕組みも取り入れなくてはと思っています。その一つが、今おっしゃられたとおりデイサービスの送</p>

	<p>迎業務の委託をタクシー事業者に運行委託して、移動手段の充実を図る方法があります。あるいは、今後タクシーについては、郊外部でドア to ドアの移動方法を考えております。例えば、タクシーだと郊外部へ行くと運賃が高くなってしまいますが、エリア限定の定額制や相乗りサービスなど、国でも様々制度改正しておりますので、郊外部の空白地域はきめ細やかな移動手段を充実し、幹となる鉄道、バスを充実してそこに寄せていくという取組をしております。</p> <p>もう一つは、幹を東西軸に充実しようとしていますが、前橋駅起点で南と北が分かれておりますので、それを南北幹線で一気に通貫で移動できるような、宇都宮のLRTにも負けないような需要もありますのでそのような検討も進めております。</p>
中島委員	<p>ぜひ、新たな移動手段ということで、相乗りみたいな方法も必要じゃないかと議論が出てきておりますので、タクシーとデイサービスなど異業種の組合せ等を前橋市で先進的に取り組んでいただきたいと思います。あるデータでは、バスの乗り換えにおいて、群馬県民は非常に嫌う傾向があり、乗り換えがあると車での移動手段になってしまいますので、ぜひ、取り組んでいただきたいと思います。</p>
大森委員	<p>前橋商工会議所 稲田委員お願いします。</p>
稲田委員	<p>重点事業35「外国人への理解促進・共生社会」です。産業界でも人手不足で、これから人口が減少していく中で外国人材が働いていることに非常に期待感があります。その一方で、地域住民、特に自治会の方々からごみ出しのルール、普段のお付き合いがないなど、外国人材との交流がなかなか進まないというのが現状だと思います。現在、前橋市では外国人の割合が2.26%とありますが、これが2070年になると10%（10人に一人）が外国人になると、自治会の中でも外国人がいるのが普通の社会になると思います。そうした中で、例えば自治会の中の活動、外国人の方にも地域の中の活動に参加していただくことが外国人と日本人の相互理解また地域の中での創生に結びついていくのではないかと考えております。質問に書かせていただきましたが、担当課に共生社会推進課、自治会の窓口である担当課が入るべきだと思います。民間主体のカラオケワールドカップということで、日本人と外国人との交流の場というものがありましたが、普段の生活の中でのお付き合いが深まるような仕組みを考えていかないと、外国人との共生というのはなかなか進まないのではと思いました。ですので、普段のお付き合いが深まるような仕組みを考えていただければと思います。</p>
大原文化国際課長	<p>今、お話がありました通り、自治会の中に外国人の方が入り込むということで、文化国際課では、外国人とのふれあいで、現在取り組んでいるのが、七夕まつり、前橋まつり、それ以外の各種イベントへの外国人の参加について、ある程度お願いして参加していただいております。2022年度は、防災訓練などを実施し参加していただきましたので、そういった取組を増やしていき、市民の方と触れ合える機会を増やしていきたいと取り組んでいます。先ほどお話があ</p>

	<p>ったカラオケワールドカップは民間の自主事業で取組んでおり、日本人と外国人との交流を行っていますが、そういった機会の創出についても現在いくつか実施はしておりますが、多文化共生の普及啓発という事で、それ以外についても今後また研究をしていきたいと思っております。共生社会推進課については、文化国際課から話をさせていただきまして、自治会の取組についても相談させていただければと思っております。</p>
大森委員	<p>町内会の中だと考えると、いろんなセクションが将来を見据えて協力して取り組んでいくという事が大事だと思います。例えば、生涯学習奨励委員などと一緒に、外国籍の方と多文化共生の学び合いをしていくということや、生涯学習奨励委員の研修に入れていくなど、少し学びもしていけないのかなと思います。一方で、学校ですと、全てがうまくいっているわけではないが、子どもを真ん中におくと親も PTA であったり、旗振りやウォーキングに参加してくださったりしています。例えば、こども会育成会や学校 PTA などから繋がっていくというのも重要ななと思いました。多分、一つのセクションでは完結しないので、テーマ立てが必要なのかなと思いました。</p>
江口委員	<p>やはり日本人が考えている常識の生活と各国の人が考えている常識は全く別です。まずそれをすり合わせるためにも、企業の中でも普段の生活など指導していただけたらいいと思います。</p> <p>また、今は日本語教室も、コロナ前に戻って15人が1クラスですが、キャンセル待ちがいるくらい、どんどん増えています。国際交流協会の中では企業の中で、日本語教室をやってほしいと依頼しています。日本語教室は会話だけではなく、いろんなことを学び合える場所ではありますが、実習生の制度の関係で、これから国の方向としては日本語が出来ない人は、就職には難しいため、日本語教育を率先して進めていくという事もあるので、もう少し日本語を学ぶ場所をこれから増やしていく必要があると思います。日本語を学ぶほか、地域を学ぶ、日本の社会を学ぶというお互いに学び合う事が、必要になってくるのではないかなと思います。</p> <p>それから、アプリをどんどん活用して欲しいとお願いして、アプリを使っていると思いますが、相変わらず相談は窓口に来てくださいというのが前橋のスタンスなんです。私も月に20件くらい群馬県、あるいはいろんな地域からアプリを通しての相談が来ます。本当に細かいことですが、「入管の書類がわからなかった」、「市役所から来ている通知の内容がわからなかった」というのを写真を撮って送ってもらい、内容の説明をしているくらいですが、もっと前橋がITを活用した街づくりをした方がいいのではないかなと思いました。いかがでしょうか。</p>
大森委員	<p>こういった相談対応におけるデジタル化ということですね。働きながらだと、なかなか相談にも行けないしということで、いかがでしょうか。</p>
大原文化国際課長	<p>国際交流協会にはいろいろお世話になっており、様々取り組んでいただいているところではあります。今、ITを活用ということでのご意見をいただきまし</p>

	<p>た。現在、パートナーシップ事業として、先程報告がありましたが、翻訳通訳アプリの実証実験をいろんな部署で行っています。ただ、通信エリアの範囲が5キロというところで、狭いエリアで始めたものですから、外部施設まで通信範囲が届いていない状況でした。ですがエリアを10キロに広げる事ができ、デジタルの実証実験を行っているところでもありますので、その結果を踏まえいろんな部署からもご意見いただき、各部署でそういった取り組みが必要ということであれば考えていきたいと思います。</p>
大森委員	<p>いずれにしても外国人の方が減るという事は、まずないという事なので、増えてからどうしようとするのではなく、今からやらないといけないと思います。例えば、伊勢崎市とか先進市にいろいろ話を聞きながら取り組めるといいのではないかなと思いました。</p>
江口委員	<p>8月に渋川市の教育委員会で外国人の人権についての話をしてきたのですが、学校の先生は年に一度人権の話をするらしいのですが、教育委員会が実施しているようです。前橋市はどうなのでしょう。人権の話は教育委員向けに実施しているのでしょうか。例えば外国人の人権など。</p>
大森委員	<p>人権教育自体は指導者養成講座で必ずやっていると思いますが、その中に外国人のテーマが入っているかどうかは、教育長にお聞きしてよろしいでしょうか。</p>
吉川教育長	<p>今、大森座長がお話いただいたように、研修の中で多文化共生などについての人権の学びはあると思うのですが、集合研修の中で渋川市のような研修というのはまだないのかなと思っております。ただ、教育長として呼ばれていった際には、必ず多文化共生について触れてお話をさせていただいております。9月1日現在でまったく日本語が喋れない子ども達が91名おります。どんどんこれからも増えていくと思いますので、子ども達、そして前橋に住んでいる外国の方々の人権がしっかりと守れるように、教育現場でも大切さを伝えていく場を作りたいと思います。ありがとうございます。</p>
大森委員	<p>前橋の地域若者会議 萩原委員お願いします。</p>
萩原委員	<p>1点お伺いしたいのが、赤城の恵ブランドのところ。ブランド自体の方向性としては、地産地消ということで前橋市内の方に、市外の農産物とか食品とかよりも、市内のモノを選んでもらえるようにと、市内向けのところに重点を置いているのか。それとも、前橋市のいろいろな農産物とか食品を市外、県外とか外に向けてイメージアップとか、外からの購入者数の増加とか、外に向けて行っているのか、どこに重点を置いているのかというのが分かりづらかったのでお伺いしたいです。また、認知度がまだまだ浸透が途中であるということもありましたけれども、SNS を開設されていると思いますので、閲覧数や実際の認証を受けたことでの購入数の増加など、認証数以外のところでどのくらい周知されているのか、販売数が増えているのかなどを把握されているのかお</p>

	伺いできればと思います。
大森委員	私も県外に前橋ブランドを売り出すためのものだと思っていたので、その辺含めていかがでしょうか。
中野農政課長	赤城の恵ブランドについてですが、市内に向けてなのか県外等に向けていくのか非常に難しいところではあります。認知度調査の中では、まだまだ市内でも認知度が低いという事がありますので、まずは前橋の人にもたくさん知っていただかなければならないということで、今活動をしているところではあります。ただ、前橋市民の人が赤城の恵を買うのではなく、前橋のブランドとして全国へ発信していくというのが目標としてございますので、当然ながら県外、東京を中心としたところ、あるいは今 SNS が発達しておりますので、情報発信ですとか、またふるさと納税で赤城の恵を取り入れて実施しているので、市内・市外それぞれに発信をしていけるように取組んでおります。SNS 等の発信ですが、農政課でもインスタグラムを使って発信をしております。また、赤城の恵ブランドになった方には、HP、インスタグラム等で情報発信をしています。販売がどれくらい伸びたかということについては、年度ごとに事業者の方に品目ごとの販売実績をいただいております。今手元にはございませんが、実績はわかりますので、そういったことも検証しながら、どういったところが強いのか、弱いのかを今後も見極めながら赤城の恵の認知度向上に向けて頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
大森委員	赤城の恵に認証されると売り上げがぐっと伸びるという状況になればいいですね。そうするとみんな頑張ると思っておりますので、ブランディングが大切だと思います。
大森委員	矢端委員お願いします。
矢端委員	赤城の恵の認証を受けているものとして、意見を言わせていただきたいと思います。認証を受けるときの食品安全の基準がとても厳しいので、前橋の保健所も厳しいですが、赤城の恵で認証されているんだったら大丈夫ですねと信用をいただいているのも二次的な効果かなと思います。食品安全の検査が5年に一回あるんですが、赤城の恵の検査に通っているとそれが簡単になったりするなど、非常に今はハサップの関係で物凄く食品安全の基準が厳しくなっているので、そうゆうふうに簡素化されるのはありがたいところでございます。もう一点、事前質問させていただいたのですが、インスタグラムが前年度に比べてアップ数が少なくなっているのではと思ひまして職員さんにお聞きしたところ、前は赤城の恵のインスタをアップする専門の職員さんがいたのですが、今はなくてそれぞれがあげているので、なかなかアップ数が行きませんと伺っていたのですが、今はいかがでしょうか。
中野農政課長	インスタグラムなどの情報発信が少なくなって、専門の職員がいなくなったからというところがあったのですが、専門の職員といっても、ブランド推進係

	<p>の担当がアップしていましたが、たまたま担当だった職員が異動してしまって、新たな担当がなかなか上手く発信できていない部分があるのかなという部分については反省しております。また、課を含めて様々発信をしておりますので、またどんどん伸びるように頑張っていきたいと思います。</p>
大森委員	<p>ブランドだけではなく、食品検査もしっかりしているというの、大きなブランドになると思いますので、それも発信できるといいですね。このブランドになっていけば、安心安全という意味でもいいなと思いました。</p>
大森委員	<p>今回新しく委員になってくださいました、前橋市私立保育園長連絡協議会田中委員さんいかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>私の分野では、子育てという事ですが、少子化という事で保育園も人口減に柔軟に対応できるような政策を考えていただきたいと思いました。また、いろいろな行事に関しましても、お話が出ておりましたが、のびゆく子どもの集いも地域でお話を聞きますと、このコロナ禍でイベントを中止しているため、先頭に立って実施してくれる方が、だんだん少なくなってきており、なかなか上手いかないというお話をよく聞きます。その辺、市の方としても、手助けをしていただけるとありがたいと思っております。出生数も80万人を切っておりますので、そういうところも柔軟に対応していただければと思います。</p>
大森委員	<p>少子化に対応するため、みんなが生き育てやすい社会を作って、何とか回復していけるといいなと思っている一方で、出生数は77万人ですので、それに対応した学校運営や保育園運営をやっていくことも考えていかないと、という現実があるということですね。ありがとうございました。</p>
大森委員	<p>一般社団法人 コード・フォー・ジャパン 山形委員いかがでしょうか。</p>
山形委員	<p>私は普段市役所の方とのやり取りが多いものですから、このような会議で住民の皆様、関係者の方々の話を聞いておまして、全国回らせていただいている中でも、活発な意見が出ている会議は珍しいと思いました。前橋市の取組は他の町からの目線からすると素晴らしい取組だと思っています。それを更にどう良くしていくかという議論がとても面白い視点だと思いました。前橋市に様々関わらせていただき2年弱というところもあり、具体的な事業の意見などまだ出づらい時期ではありますが、外国人の取組で、せっきくデジタル化してアプリを使っているが、結果的に最後は窓口対応になっているという事など、大切な意見だと思いました。デジタル化やDXは作って終わりになってしまいがちなところがありますので、前橋市はそうではないですが、今後そういった動向もまた見させて頂ければと思います。以上です。</p>
大森委員 北村委員	<p>群馬大学、北村委員お願いします。 特に問題ではなく話題提供ですが、朝日新聞の5月1日の夕刊に、一面に前橋の街づくりについて掲載されておりました。今まで頑張ってきたことが、ち</p>

	<p>よつとずつ世間に評価されているという事が載っていました。記事自体はデジタル版でも読めます。事前調書に書かせていただいたのは、前橋の移住に関して、「スロープ」という雑誌をPDFであげているのは情報発信の面で非常にいいことだと思いました。政策として移住を前橋市はどう考えているのか、という事です。都市的な生活ができますし、赤城南麓のように田舎的な良さも味わえるまちなので、そういう戦略みたいなものを考えていくようなまちになるのかどうかというのは気になっております。以上でございます。</p>
大森委員	<p>北村委員ありがとうございます。移住促進のコーディネーターの方も頑張っているけれど、ある程度戦略的に感じています。前橋の街中の再開発も動いていく中で、いろんな暮らし方をもうちょっとメニューを揃えて様々に対応できるよう提供していけるといいなと感じております。ありがとうございます。</p>
大森委員	<p>それでは、日本政策金融公庫前橋支店 森下委員お願いします。</p>
森下委員	<p>要望というよりも感想ですが、私は転勤族で、今群馬で10か所目の勤務地です。札幌や和歌山や秋田など様々いっておりますが、県都でこれだけ農業の方が多くて、畜産の方もおりますし、ナスなどもあり本当に農業が盛んで驚いております。一番担い手農業者が多いのは、35市町村の中で前橋市なんです。こんな県都というのはすごく珍しくて、前橋市に来てみてすごくびっくりしました。今回意見で、耕畜連携のところも追加の記載を入れていただいたのですが、非常に農業が盛んでいろんな地域資源がある県都なので、是非そういった特性も活かして、本当に全国的にも珍しい県都だと感じておりますので、そういった特色も活かして取組んでいただけたら農業に携わるものとしては嬉しいなと思えました。以上です。</p>
大森委員	<p>ありがとうございます。いろいろ見てこられるとこういったご意見というのは貴重だなと思えました。</p>
大森委員	<p>前橋まちなかエージェンシー 橋本委員いかがでしょうか。抜けてしまっております。もし戻られたらご意見いただきたいと思えます。</p>
大森委員	<p>皆様からご意見言い足りてない方、いらっしやらないでしょうか。前田委員さん大丈夫でしょうか。先ほど自殺のところでご質問でしたが、本業のところでご意見大丈夫でしょうか。</p>
前田委員	<p>大丈夫です。</p>
大森委員	<p>はい。ありがとうございます。本当にたくさんのご意見を出していただきましてありがとうございます。しっかり事務局の方では記録をまとめてくれると思いますので、二次評価に活かしつつ、また次の計画に活かしていただきたいなと思えます。</p>

<p>政策推進係員</p>	<p>では、次の議事に入らせていただきます。議事（２）のデジタル田園都市国家構想交付金事業について、議事（３）県都まえばし創生プラン改訂について、ということで一括して事務局から説明をよろしく申し上げます。</p> <p>【(参考資料)「第七次前橋市総合計画（創生プラン）令和５年度行政評価等について」に基づき説明】</p>
<p>大森委員</p>	<p>２つの説明をいただきました。交付金の活用について、もう一つは総合戦略の改訂について、いずれも、国の施策に合わせていくという説明でした。全部がデジ田になってしまったので、すごく分かり難いです。デジ田はデジ田として実施していて、地方創生「まち・ひと・しごと」やりましょうということで、それぞれ実施していたのが、デジ田になってしまったので、どこまでが今までの実施していたものなのかが分かり難くなってしまいました。創生プランの改訂については、また１２月に内容に関する議論ができるということで、今日はそのスケジュール感についての説明でした。交付金とプラン改訂について何かご質問ありましたらお願いします。大丈夫でしょうか。では、今事務局から説明があった方向で進めていくということで、よろしく願いいたします。ありがとうございます。</p> <p>それでは、今日予定されていた議事は以上となりますので、座長を降りさせていただきます。皆様活発なご意見かつ進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは、細谷部長にお返しします。</p>
<p>細谷未来創造部長</p>	<p>大森座長さんスムーズな議事進行ありがとうございました。続きまして、事務局より連絡事項ありましたらお願いします。</p>
<p>政策推進係員</p>	<p>事務局より１点連絡です。本日の会議録については作成でき次第、委員の皆様へ送付させていただきます。内容ご確認いただいた後、HPでの公開となりますのでよろしくお願いします。なお１２月の第２回の会議については、別途連絡させていただきます。</p>
<p>細谷未来創造部長</p>	<p>ただいまの事務局からの説明について、何か確認したい点等ございますでしょうか。全体を通してでも結構です。</p> <p>はい。よろしいでしょうか。本日は、第七次総合計画の管理、行政評価について各委員さんお立場の中から貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。今後の取組に反映していきたいと思っております。また、先程事務局より説明があったとおり県都まえばし創生プランの改訂につきまして、また１２月に会議を予定しておりますのでお願いいたします。</p> <p>それでは全ての会議を終了といたします。以上をもちまして県都まえばし創生本部有識者会議令和５年度第１回の会議を終了いたします。本日は長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。以上</p>